

居安思危 vol.6

平成 26 年 11 月 14 日
大阪府立大手前高等学校
保健部 大川香理

居安思危 思則有備 有備無患

安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し

(出典「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」)

防災講演会は如何でしたか？被災された先生の生の声を聴く機会は本当に貴重なものであったと思います。各々考えさせられることも多いのではないのでしょうか。記憶の新しい内に感想文を書いて担任の先生に提出してくださいね。

さて、講演会の最後に気仙沼向洋高校の生徒の作文が流れましたが、よく読めなかった人も多いように聞きましたので、片岡先生の了承を得てここに掲載させていただきます。

講演会の内容を思い出しながら読んでください。



最後に

決して忘れない 生徒の証言

～当時一年生だった生徒の作文より～

自分たちは失った物も多いのですが、この震災で学んだことは、命の大切さ、感謝です。本当に悲しかった、辛かった……。だからこそ、復興へ力を尽くしていかなければなりません。

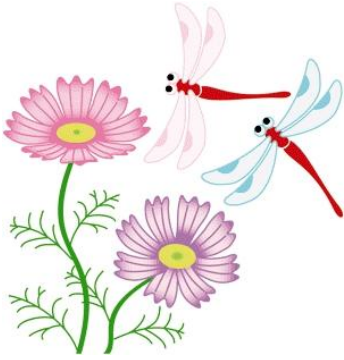
震災で家が流されたので新しい家を建てるという新たな目標ができ、目標を達成するために頑張って勉強しています。そして色々な資格を取得しています。震災で自分の進路は大きく変わりましたが、新たな目標に向かって頑張りたいと思います。

今後は、私が働き手となり、この気仙沼を復興させる番です。そのためには今、私たちがやらなければならない事をしっかり行い、今後に備えたいと思います。

今私たちはこうして生きていますが、これは生かされた命であり、全てのものへのありがたみを忘れてはいけません。人間、本当にいつ死ぬかわからない。死は近くにあるものだと感じました。だからこそ、毎日後悔しないように生きたいと思いました。

この震災で私が思ったのは、人ってすごいなと感じました。被災した人どうしが助け合ったり、被災地のためにボランティアにきてくれたりとほんとにすごいなと感じました。





3・11に体験したこと、泣いた出来事、大好きだった人たちとの別れ、すべてが嫌な思い出だけど、絶対に忘れずに命を落とした人たちの分まで必死に生きていこうと心に決めました。

5月になり、西高での生活が始まったが、とても辛い日々だった。学校までのバスは、朝がとても早かったし、なんといってもアウェー感がとても辛かった。でも、辛く苦しい日々を過ごしたことで、些細な事も大きな幸せに感じられた。

11月ついにプレハブ校舎での生活は、毎日が幸せで楽しかった。向洋が1つに集まることの嬉しさを感じていた。

他の人が絶対に味わえないような事を体験していることがとても嬉しかった。

やりたかったことがたくさん出来なくなった。その分機会を与えてくれる人もいた。時間の使い方も、少ない時間の中でどうしたらいいか、最も有効な使い方を考えた。授業がずれた分、勉強は遅れて、検定も予定が崩れた。もっとしっかりと勉強したかった。

幼なじみの友人の死。葬式に行つて初めてもうこの世にはいないんだと理解した。この日一つのことを心に決めた。どんなにかっこつけてると言われようと何を言われようとこれだけは絶対に曲げない。

「あいつの分まで、生きるんだ。」

私はこの震災を機に、辛いことばかりではなく、なかなか味わうことのできない人生の経験をしました。自分の中で大きく成長したところもあると実感しています。あまり思い出したくない過去ですが、自分の中での強みとして心の中にしまっておきたいと思います。

あの日、気仙沼向洋高校は学び舎・実習設備・部活動用具など全てを失いました。ですが、私たちは次のステップへ一歩ずつ踏み出すことができています。本校の現状を心配された全国の皆様より暖かい支援をいただき、何とか活動を再開できました。また、生徒会、各学科に対しても、たくさんの企業・学校・個人の方々から支援物資が届きました。

本当にありがとうございました



今回の講演会に来てくださった先生方

左から順に、畿央大学 古川恵美先生

気仙沼向洋高校 片岡剛先生、阿部葉子先生、松本敦子先生



気仙沼市観光キャラクター

「海の子 ホヤぼーや」

気仙沼の名産のホヤの頭、サンマの太刀、ホタテのベルトをしています。

